

われ5

サークル仲間

大正琴教室

中央公民館には三教室十九サークルがあり、文化祭への参加などいろいろな活動が行われています。年齢、職業はさまざまですが、それぞれサークル仲間の和が広がって、毎回楽しく受講している皆さん。その触れ合いの場を紹介します。

今回は大正琴教室におじゃましました。

◇ ◇

始まって十五、六年になるという大正琴教室の練習日は毎月第三金曜日。午後七時になると大正琴の音色が部屋中に響きわたります。



長い歴史があるだけあって、始めて三月目の人から中には十五、六年のベテランも。「熱心に教えてくださり、とても声が素敵です」と評判の岡崎素輪先生を中心に、現在二十三人のメンバーが毎回楽しく練習しています。

「里の秋」「浜千鳥」などの童謡から演歌まで幅広くチャレンジ。練習生たちは「大正琴の音色が好きです。また、仲間同士の和が良くファミリーな雰囲気まで心が安らぎ、毎月一回の練習日が待ち遠しいです」と話してくれました。

子育て ひろ場

自然との触れ合い

——直接体験をしよう——

家庭教育学級専任講師 秦泉寺 千津



りえちゃんが、お母さんとお散歩をしていると、木の葉が風に舞いながら落ちてきました。

「あっ。葉っぱが舞いゆう。うすまきみたい」と指さして驚きの声をあげました。

幼児期は、知的好奇心に満ちています。

おとなにとってはあたりまえのことですが、子どもには一大発見なのです。

自然はその美しさや変化の不思議さにあふれています。

その自然の不思議さは、人の心を動かし、小さな生きものを愛するやさしい気持ちや探究心、生命の大切さなどをそっと教えてくれます。

道ばたにさりげなく咲いているかわいい草花、ほほをなでる風、トンボや蝶など四季折々の豊かな自然を身近に感じながら、親子で散歩するのはとてもよいことです。

激しく降る雨、ゴロゴロと

いう雷の音に驚き、雨あがり
の虹や夕焼け空を眺めて「きれいなえ」と感動する心、日常生活の中から、いろいろ感じる心を育てることが大切ではないでしょうか。

子どもの頭の中は、乾いた砂が水をどんどん吸い込むように、新しい知識をすごい勢いで吸収していきます。



「お母さん、これなあに」とよく質問します。そんな時一つ一つについていねいに対応してあげましょう。

「いいことに気がついたね」「えらいわねえ」

「これはどうなっているのか一緒に見てみようね」などと子どもとことばのやりとりが

できるお母さんは、すばらしいと思います。

幼児期は、子どもへの語りかけ、接し方が大切です。無理に教えようとしたり理屈をいうよりも、事実をありのままに見せ子どもと共感し一緒に考えてみるのが大事です。

直接体験の一つ一つが本物の知恵を身につけるきっかけになっていきます。

夜空の星座、ぼっかり浮かんだ雲、せつせと働くアリにも目を止めたり、砂遊びやままごと遊びなど自然の中で遊んだひとときは、子どもにとってよい経験となり心に残ることでしょう。野菜畑での土いじりも子どもとの触れ合いを楽しめる場です。

動植物を愛するやさしい心、自然に親しむ豊かな心を育てるには、親自身が豊かな感性をもっていることが大事ではないでしょうか。